

「韓国における教育改革の動向」

白 淳根（ソウル大学教育学科）

◆通訳 趙 卿我（博士後期課程1年）

杉本（司会）：

最初のご報告は、韓国・ソウル大学教育学科の白淳根先生です。去年お越しいただいている方はすでにご存知だと思います。ソウル大学の教授で、評価などがご専門でいらっしゃいます。アメリカのUCLA（University of California, Los Angeles：カリフォルニア大学ロサンゼルス校）で学ばれまして、1990年代より国家的な政策として韓国が進めております、パフォーマンス評価の第一人者とされております。ご著書には、『教育測定の理論と実践』『明るい未来のための教育論』など多数ございます。最近、韓国を代表する著名な20名の研究者を集めた論文集が出されましたが、白先生はその中のお一人に選ばれております。報告を大変楽しみにしております。それでは白先生、よろしくお願いします。

I. はじめに

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました白淳根と申します。

スライド3～4

私は、「白」白磁のように、「淳」純朴で、「根」根本を重視する、白淳根と申します。再び皆さんとお会いできて、とても嬉しく思っております。また、田中先生や京都大学の先生方に感謝しております。私は日本に来るたびに、桜のことを考えます。ただ桜を考えるだけではなくて、桜のように、仲良く日韓交流ができればいいと思っております。・・・でも、なぜ皆さん、笑ってくれないのですか。

スライド5

今日の発表は、「韓国教育改革の動向」です。目次は、1はじめに、2初等・中等教育の改革、3大学教育の改革、4人材大国建設のための戦略および課題、5教育ニュー・ディール SUPPORT-Upプロジェクト、6おわりに、です。

スライド6

韓国では、21世紀は「国際競争の時代である」と言われております。21世紀は、常に新しい知識が生まれ、知識が高度化・情報化する時代です。

韓国では、世界の中で一流国家を建設するために、長期的で総合的な教育改革が推進されています。教育需要者、つまり雇用者側の視点、未来からの視点、世界からの視点を重視しています。

とくに韓国では、創意的な実力がとても重要視されており、国内から世界に、そして今までの教育の中では暗記が重視されてきましたが、これからはそうではなくて、創意的な実力が重要視されております。

スライド7～8

◇ 韓国の教育状況

まず簡単に、韓国の教育状況についてお話します。

小・中・高校の就学率は、1994年以来、ほぼ100%に達しています。とくに2008年からは、高校から高等教育機関への進学率は83.5%に達していて、これは世界で一番高い国だといわれております。

そして韓国には現在、小・中・高校は11,000校あり、専門大学と大学は合わせて400校あります。教員数は40万人に達しています。児童・生徒・学生数は、幼稚園も合わせると1000万人になっています。

II. 初等・中等教育の改革

スライド9

◇ 初等・中等教育の改革

続きまして、初等・中等教育の改革について話します。とくに重要なのは、学校の満足を2倍、私教育の費用は半分にしようという理念です。

大きく分けると、高校多様化300プロジェクト、英語公教育完成プロジェクト、3段階の大学入試自律化、基礎学力、正しい人性責任教育制、児童・生徒に合わせる学校支援システムに分けることができます。

スライド10

◇ 高校の多様化300プロジェクト

まず、高校の多様化300プロジェクトについてお話します。中等教育の中では、多様化・特性化・自律化の推進が行われています。高校では、全寮制公立高校が150校設立されています。これから、マイスター教育を重視して、50校を設立する予定です。私立高校の中では、自律型の学校を100校設立することを予定しています。その他、教育課程や評価を特別に認定する、特定教育高校プランが作られております。また、生徒にあわせた奨学支援のシステムが導入される予定です。

そして全般的に教育力を強化し、生徒と保護者の学校選択権を保障しようというのが、高校多様化300プロジェクトです。

スライド11

◇ 英語公教育完成プロジェクト

続きまして、英語公教育完成プロジェクトについて話します。

グローバル時代の今日、国際語としての英語に関心を持ち、グローバルな人材を育成する必要があると考えています。とくに、英語の授業を英語で行う教員を養成することが重視されています。小・中・高校でも、英語で授業を行うことを拡大しております。ネイティブの補助教員を確保するように努力し、また、教師の国際交流プランを導入する予定です。そして、教育の国際交流も拡大する予定です。とくに、韓国の慶州（キョンジュ）と仁川（インチョン）国際空港の地域には、特区が作られています。

スライド12

◇ 3段階の大学入試自律化

次は、3段階の大学入試自律化についてです。3段階の大学入試自律化は、大まかに言えば、大学の特性に合わせて人材を発掘し、学生の潜在力を発掘するためのモデルの提示です。

高校では、評価し成績をつけるときに「修学能力試験」という、大学入試に使われる評価が含まれます。この「修学能力試験」を用いながら各学校の自律化を進めるのが第一段階です。そして第二段階では、国家が実施している「修学能力試験」の科目数を減らしていきます。最後に第三段階は大学の完全な自律化です。各大学の選抜能力と制度的な基盤が構築されたときに、完全に各大学に任せることになります。

スライド13

◇ 基礎学力、正しい人性、責任教育制

基礎学力、正しい人性、責任教育制ということについて話します。各学校に自律性を保障し、それに伴う責務を確認して、公教育の質を管理するということです。

とくに、基礎学力がっていない児童・生徒をゼロにするプランがあります。そして児童・生徒が正しい人性を持つように、教員は責任を持ちます。各学校の学力情報なども公示しております。また、地域・学校の教育格差を解消するために、一生懸命努力しています。

この資料の中にはないのですが、去年、初等学校6年生、中学校3年生、高校1年生の1000万人の児童・生徒たちが、国語、英語、数学、社会、理科の試験を行って、その成績が公開されました。その成績によって、ある地域では国家議員が落選したりするなど、地域によっていろいろな問題が生まれました。韓国は、来年6月に選挙がありますが、今年は、その選挙のためにも各地域の児童・生徒ががんばって勉強しています。政治と教育が必ずしも連動するわけでもないと思われませんが、韓国では高く関連しています。とくに、保護者が教育に関心が高いので、その地域の成績がよくない場合には、支持率が下がって選挙で負ける場合もあります。

スライド14

◇ 児童・生徒に合わせる学校支援システム

次は、児童・生徒に合わせる学校支援システムについて話します。教育の質を再検討し、教育条件による格差を緩和して、児童・生徒の学習権を保障しようということです。教員の競争力と専門性を伸張するために、教員評価が頻繁に行われています。未来型教育課程への改編が行われて、以前の教育課程から変更されています。教育条件の改善のために、国家が積極的に介入しています。地域社会との協力を通して、低所得層の児童・生徒の支援も積極的に行われております。

今は、小・中・高校で、学校の満足を2倍にするためには、私教育の費用を少なくしなければならないと言われてしています。しかしここで、国がどうしてこんなにも私教育のことを議論しているのかが重要です。

これから10年間、様々な理由で、小・中・高校の若い人たちが海外留学に行くと思われます。国家の1年間の教育費は、33兆ウォンになりますが、個人が教育に使っている費用も33兆ウォンで、国家と個人で使っている金額が一緒になっています。さらに、国家予算の金額は正しく表示されますが、個人の使用金額は表示されていない部分がある場合もあるので、実際には、国家よりも私教育費の方が高いかもしれません。

裕福な人は教育に多くの金額を使うことができるので名門大学に入ることができますが、一方、あまり裕福でない人は教育費に多くを費やすことができないので、教育格差は広がっています。この改善方法として、国家が教育に投資する金額を増やし、個人の私教育費を減らして、国家が全般的に教育に責任を持つ方向に進んでいます。小・中・高校の教育改革においてとても大きな課題は、個人の貧富の差による教育格差が起こっているということです。国家は、このことを大きな社会問題として捉えています。

Ⅲ. 大学教育の改革

スライド15

◇ 大学の教育改革

次は大学の教育改革について話します。大きく分けると、グローバル研究大学プロジェクト、児童・生徒に合わせる人材大学プロジェクト、生涯学習大学のプロジェクト、グローバル・ヒューマンネットワーク・プロジェクト、未来型学校支援システムの構築に分けることができます。

スライド16

◇ グローバル研究大学プロジェクト

グローバル研究大学プロジェクトは、大学の研究を支援し、その成果が世界的に評価されるための未来型研究体制を構築することです。R&D (Research & Development) とは、大学と政府と企業が連携し、研究費の支援を2倍にしようということです。「英才発掘から年金まで」として、科学技術人材の生涯支援インフラを構築しております。グローバル科学技術人材を毎年6000人支援するという内容も含まれています。

大学国際化の支援を強化し、グローバルアカデミーを具体化しようという内容も含まれ

ています。例えば、私が勤めているソウル大学には、外国人学生が2500万人います。全体の講義の中で、英語講義を除く一般の講義の中でも10%を英語で行っています。学校全体の運営予算は、9000億ウォンほどになります。その中で、政府が支援しているのは2500億ウォンくらいです。50%ほど、つまり5000億ウォンほどは、研究支援費として外部から寄付されています。教授一人が3億ウォンくらいもらわないときちんとした研究ができないので、それくらいの予算をいただいて研究しております。国立大学でソウル大学は国内で一番良い大学と言われていますが、大変な状況です。

スライド17

◇ 学生に合わせる人材大学プロジェクト

次は、「学生に合わせる人材大学プロジェクト」、つまり、学生の能力や必要などに応じた大学教育を、効率的に支援するということです。学生に合わせた大学の認定制度を導入して、学生の就職率と学生率に連動して、フォーミュラ財政（基本予算）を支援しております。優秀な専門大学の教育年限を自律化し、職業教育を促進しております。計画として、専門大学については、学生のニーズが高ければ2年制の学校を3年、4年に延長し、4年制大学と同様の資格を与えようとしています。

スライド18

◇ 生涯学習大学のプロジェクト

一部の大学では、生涯学習大学のプロジェクトも行う予定です。ユビキタス大学システムを構築し、持続的な学習を通して学習の質を向上させる予定です。社会人向けの大学プログラムの支援を活性化し、成人が大学に気軽に入れるように特例が設けられてきています。大学の中には、有名なゴルフ選手やスポーツ選手、芸能人などを自分の大学に入れる戦略をとっている学校もあります。

また、大学施設や大学資源を地域社会に解放することを活性化しています。大学の、多様な社会ボランティア・マイレージ制度を導入して、大学、大学教授、大学生などが「知識を分かち合う」実践文化の形成をはかっております。

スライド19

◇ グローバル・ヒューマンネットワーク・プロジェクト

そして、大学生のグローバル・ヒューマンネットワークを広げる取り組みも行っています。大学のグローバル現場学習プログラムを実施しています。青年海外ボランティア団体の養成や、海外での就職を国家で支援しています。教員の養成機関においては、英語教師になるために、少なくとも6ヶ月以上アメリカで勉強することを認めています。

スライド20

◇ 未来型大学支援システムの構築

大学の運営は自律的な執行機関に委任し、政府は財政支援および管理を行うシステムを構築しています。国家奨学制度を導入して、低所得層に優先的に奨学金を支援しています。しかし、低所得層の人が大学の学費を払わないのはもちろんのこと、低所得でない人も、

低所得に見せて学費の免除を受けようとするという事態が起こっています。たとえば、父親が失業中の場合は大学に入りやすいのですが¹、父親が仕事に就いていると大学に入り難いのです。大学の中では、本当の低所得層なのか確認することが必要になっています。

地域のHRD（Human Resource Development）関連センターを、「生涯学習雇用支援センター」として統合し、大学の産学協力支援と大学中心の生涯学習、職業能力開発、雇用支援のワンストップサービス²を実現しています。

IV. 人材大国建設のための戦略及び課題

スライド2 1

◇ 人材大国建設のための戦略および課題

韓国における人材大国建設のための戦略および課題は、大きく4つに分けることができます。1つ目は、学校教育の自律性と多様性の拡大。2つ目は、教育福祉拡大。3つ目は、科学技術発展。そして、4つ目は世界水準の優秀人材育成です。

スライド2 2

◇ 学校教育の自律性と多様性の拡大

児童・生徒自身の個性や能力に合わせた教育を行うためには、学校教育の自律性と多様性を拡大することが必要だと考えています。そして、教育課程や教科書を改善するために、以前の伝統を重視するよりは、未来型の教育課程や教科書にすることを考えています。児童・生徒と保護者だけでなく、地域で生まれた子どもを、地域で育てるという考え方も持っています。

スライド2 3

◇ 教育福祉拡大

次は、教育福祉の拡大について話します。経済が発展するにつれ、貧富の差が生まれます。社会格差が教育格差になってきますので、それが格差にならないように努力しています。貧困による教育機会の不平等を解消するために努力しています。

スライド2 4

◇ 世界水準の優秀人材育成

次は、世界水準の優秀な人材の育成について話します。未来志向的な自律・競争システムに転換し、国家の発展を先導する、核になる人材を育成しようと努力しております。英語で書いている論文がない場合には、有名になることも出世することもできない状況です。英語でプレゼンテーションができない場合には、出世はできません。

グローバルな青年リーダーを10万人育成していますが、1年に2万人くらいは海外で育成するように努力しています。国際交流にとっても力を入れています。

¹ 授業料が免除されるうえ、大学入試で同点数の場合、有利な条件で入る特例を作る予定であるという。

² 一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられるように設計されたサービスのこと。

スライド25

◇科学技術教育の追求

科学技術教育を発展させるための支援を強めています。その中でもとくに、基礎研究の進行や、エコ技術の発展の促進を国家政策として行っています。

研究の中に「エコ」という文字が入っていない場合は支援してもらえないので、ほとんどの研究には「エコ」という文字が入っています。しかも、エコ学校、エコ教室、エコ・・・と何でも変えているので、この状況では、「エコ学生」になるのではないかと考えています。学校や企業ももちろん「エコ」の文字を入れています。私の資料の中にももちろん、エコの緑を入れております、スライドの一枚目と最後です。

V. 教育ニュー・ディール SUPPRT-Up プロジェクト

スライド26

◇ 教育ニュー・ディール SUPPORT-Up プロジェクト

教育ニュー・ディールとは、政府が経済危機の状況にあっても、教育に積極的に投資することによって、最終的に景気の活性化に寄与することができるという考え方です。つまり、公教育の内的な充実を期することで、人材大国、世界で一流の国家を建設しようとする危機克服の非常対策です。

これは、1930年代のアメリカで大恐慌の際に、ルーズベルト政府が景気回復と社会的な富の再分配を目標に行ったニュー・ディール政策を教育に適用したものです。

スライド27

今まで述べてきた政策は、教育ニュー・ディール政策と SUPPORT-Up プロジェクトを基盤にして、下から順に、景気活性化+雇用創出、教授・学習力量強化+教育施設および環境の改善+教育制度改革および構造調整を行い、公教育を生かして教育競争力の引き上げにつなげ、そして最終的には、先進的な一流国家建設ということのためにしているプロジェクトです。

スライド28

SUPPORT-Up プロジェクトという用語は、私と、今日一緒に来ているソウル大学の学生とで考えた用語です。SはSchool Up、つまり教育施設および環境の改善、UはU-learningの環境整備。PはProgram Upで放課後教授・学習プログラム支援。Pは、Practice Upで実験・実習・体験活動の支援、OはOpportunity Upで青年の雇用創出、RはResources Upで地域の教授・学習支援センター設立。Tは、Teaching Upで教科教室制導入です。これで、危機の克服ができるのではないかと考えております。

最初は、SEVEN-Up（「SUPPORT-Up」の7個、つまり、「(lucky) seven-up」）にしようかと思ったのですが、その用語はSUPPORTにしました。

VI. おわりに

スライド 29

これまで韓国では、教育がとても大切だといわれてきました。その教育は、有名な大学、いい大学に入るための入試でした。最近では、教育が重要だということが、教育が経済発展のために行われているからというだけではなくて、教育は経済そのものだといえることができます。

多くの方が、経済発展のために教育が重要だと言っていたのですが、私は、李明博大統領と会議をした際、教育こそ経済だ、教育と経済は一致しており不可分のものだと主張しました。それ以後は、異なる意見を持っていた人たちも同じことを言うようになりました。多くの経済学者が、最近では、自分も教育学者だと言っています。そして最近では、教育学者が経済学者だと言っているのも有名になっています。教育と経済は一致しているのです。

教育個別化を推進し、教育の知・徳・体を総合的に育成できるように取り組んでおります。教育の自律化、教育の先端化、教育の国際化を推進しています。このスライドの「教育」に経済を入れても意味は通じます。例えば、経済の自律化、経済の先端化、経済の国際化、このように意味が通じます。

以前は、教育に投資している予算は GDP の 5%、私教育が 5% で、合わせて 10% になっていました。現在、教育予算をもっと増やすことを考えております。昔は、自分の子どものことだけを考えていましたが、最近では地域の子どもは全員自分の子どもだと考えている傾向もあります。そして、教育先進化をはかるために、各機関の関心や相互協力を強化しています。

世界がグローバル化し、経済世界と教育世界が共に重要だと考えています。経済が個人の発展を重視しているのと同様に、教育も個人の成長をととても重視して、とくに創意的な実力を育成する教育を重視しております。

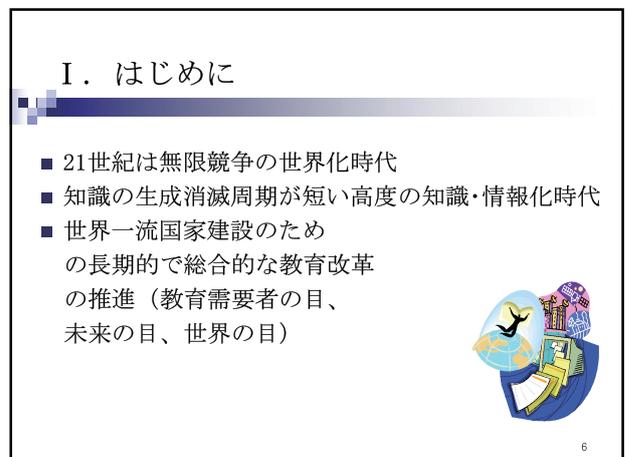
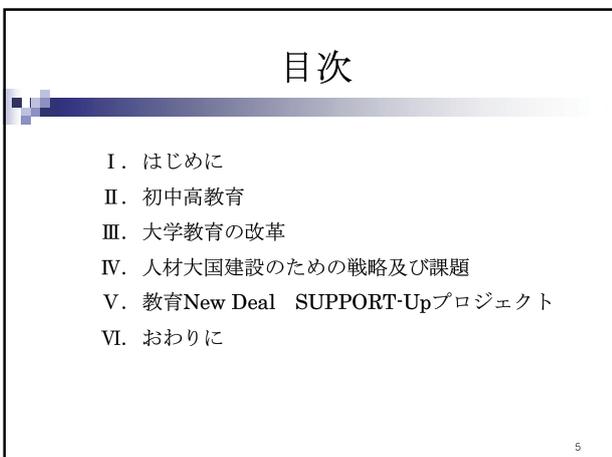
ご清聴ありがとうございました。

杉本（司会）：

白先生、どうもありがとうございました。

私は、比較教育学を専門としておりますが、韓国の教育改革のことを聞きますといつも、10年早いなと思っております。あるいは、数字などを効きますと、10倍多いなと思います。まさに今のお話は、そういう感想を新たにさせていただきました。白先生は、李明博大統領の教育ブレインという立場でもありまして、韓国の経済政策にもかなり影響力をお持ちということで、今日お話いただいた内容、ネーミングを含めまして、ひょっとすると将来、韓国の教育の新たな展開を示唆するものと受け止めさせていただきました。ありがとうございました。

記録：本所 恵（博士後期課程3年）



▶ 韓国の教育現状(就学率, 進学率)

- 初・中・高の就学率は、1994年以来ほぼ 100%に達している。
- 2008年、高校から高等機関への進学率は83.5%(世界で一番高い)(KEDI, 2009).



7

▶ 韓国の教育現状 (学校数、教員数、学生数、2008)

学校	学校数	教員数	学生数
幼稚園	8,344	34,601	537,822
初等学校	5,813	172,190	3,672,207
中学校	3,077	108,700	2,038,611
高校	2,190	122,906	1,906,978
専門大学	147	12,099	777,854
大学	174	54,329	1,943,437
総計	19,745	504,825	10,876,909

8

II. 初・中等教育 (secondary education) 改革



9

▶ 高校多様化300プロジェクト

- 中等教育 (secondary education) 多様化・特性化・自律化を推進

- 寄宿型公立高校 150校設立
- **meister** 高校 50校設立
- 自律型 私立高校 100校設立
- 特定教育高校**plan**
- 学生に合わせた奨学支援システムの導入



- 教育力を強化し、学生と保護者の学校選択権保障

10

▶ 英語公教育完成プロジェクト

- 国際語としての英語に関心を持ち、グローバルな人材を養成する。
 - 英語授業を英語で行う教員養成及び配置
 - ネイティブ補助教師確保
 - 教師国際交流プログラム導入
 - 教育国際化拡大(特区)導入



11

▶ 3段階の大学入試自律化

- 大学特性に合わせて人材を選抜し、学生の潜在力を発掘する典型方式を導入

- 1段階：学生部及び「修学能力試験」を反映させた自律化
 - 各大学の学科特性により反映比率を決定
- 2段階：「修学能力試験」科目縮小
 - 現在7科目 → 5科目 → 4科目
- 3段階：完全自律化
 - 各大学の選抜能力と制度的な基盤が構築された時期に、完全に大学に任せる



12

▶基礎学力、正しい人生 責任教育制

- 各学校に自律性を保障し、それに伴う責務を確認して公教育の質を管理
 - 基礎学力未達の学生ゼロplan
 - 正しい人生責任制
 - 各学校の学力情報などの公示
 - 地域・学校の 教育格差解消



13

▶ 学生に合わせる学校支援システム

- 教育の質を再検討し、教育与件による格差を緩和 学生の学習権を保障
 - 教員の競争力と専門性の伸張
 - 未来型教育課程への改編
 - 教育与件の改善
 - 地域社会との協力を通し、低所得層の学生支援



14

Ⅲ. 大学教育の改革



15

▶ グローバル研究大学プロジェクト

- 大学の研究を支援し、その成果が世界的に評価されるための未来型研究体制を構築する。
 - R&D 三角の助け合い体制を構築し、研究費支援は二倍に
 - 英才発掘から年金まで (科学技術人材の生涯支援infrastructureを構築)
 - グローバル科学技術人材を毎年6千名支援
 - 大学国際化支援強化でグローバル academy を具現化



16

▶ 学生に合わせる人材大学プロジェクト

- 学生の能力や必要などに応じた大学教育を効率的に支援
 - 学生に合わせた人材大学の認定制度の導入
 - 就職率と学生数に連動し、フォーミュラ 財政支援
 - 優秀な専門大学の授業年限を自律化し、職業教育を先進化



17

▶生涯学習大学のプロジェクト

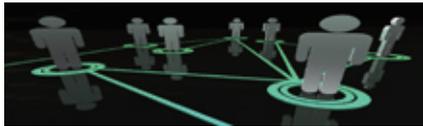
- Ubiquitous 大学システムを構築し、持続的な学習を通して 学生の質を向上させる
 - 会社人向けの大学プログラムの支援活性化
 - 成人の大学入学 (特例) 活性化
 - 大学施設及び大学資源の地域社会開放を導く
 - 多様な社会ボランティアマイレージ制度導入で 大学、大学教授、大学生などが「知識を分かち合う」実践文化形成



18

▶ グローバルヒューマンネットワークプロジェクト

- 大学生グローバル現場学習プログラム実施
青年海外ボランティア団体養成
国家支援による海外就職活性化
などの世界的なネットワークを構築



19

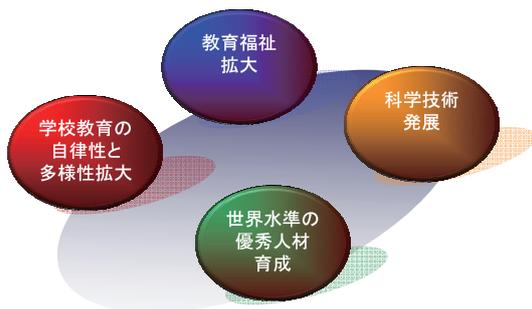
▶ 未来型大学支援システムの構築

- 大学の政策は自律的な執行機関に委任し、政府は財政支援及び管理するシステムを構築
 - 国家奨学制度構築を通して低所得層に優先的に奨学金を支援
 - 地域のHRD 関連センターを「生涯学習雇用支援センター」で統合し、大学の産学協力支援と大学中心の生涯学習、職業能力開発、雇用支援のワンストップサービスを実現



20

IV. 人材大国建設のための戦略及び課題



21

▶ 学校教育の自律性と多様性拡大

- 学生自身の個性や能力に合わせた教育を選択するためには学校教育の自律性及び多様性の拡大が必要
 - 学生と保護者が願う多様な学校設立
 - 学校の自律性と責任感の鼓吹
 - 教員の専門性向上
 - 教育課程と教科書改編
 - 学校と地域社会の協力強化



22

▶ 教育福祉拡大

- 教育の公平性、教育を通し社会統合と均等発展を追求する
 - 貧困による教育機会の不平等解消
 - 学力伸張と教育格差縮小
 - 学生の健康と安全責任
 - 児童教育と障害教育の内的な充実を期する
 - 生涯勉強ができる環境を整える



23

▶ 世界水準の優秀人材育成

- 未来志向的自律と競争システムに転換し、国家発展を先導する核心動力で機能する人材育成
 - 大学の自律性拡大
 - 大学と研究機関の教育・研究力量強化
 - 研究者中心の環境と与件改善
 - グローバルな青年リーダーを10万名養成
 - 体系的な英才育成システムを構築

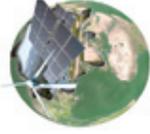


24

▶ 科学技術発展の追及

- 戦略的な科学技術投資を通じ研究や教育力量を強化し、未来社会に積極的に対応する

- 科学技術投資を戦略的に拡大
- R&D システムを民間専門家の主導で転換
- 基礎源泉研究を振興
- 緑色技術を開発
- 科学文化の生活化推進



25

V. 教育New Deal SUPPORT-Up プロジェクト

- 教育New Dealとは、政府が経済危機状況でも教育に積極的に投資することにより結局、景気活性化に寄与することができるというものである。
- つまり、公教育の内的な充実を期することによって人材大国、世界一流国家の建設をしようとする危機克服の非常対策である。

- 1990年代、アメリカの大経済恐慌でのルーズベルト政府が景気回復と社会的再分配を目標にしたNew Dealを教育に適用したものである。

26

先進
一流国家建設

公教育を生かす
教育競争力の引き上げ

教授・学習力量強化
教育施設及び環境の改善
教育制度改革及び構造調整

景気活性化 + 職の創出

教育New Deal SUPPORT-Up プロジェクト

▶ 主要事業内容

■ 「SUPPORT-Up プロジェクト」

- S (School Up): 教育施設及び環境改善
- U (U-learning Up): U-learning 環境造成
- P (Program Up): 放課後教授・学習プログラム支援
- O (Opportunity Up): 実践・実習・体験活動支援
- Y (Youth Up): 青年の職創出
- R (Resources Up): 地域教授・学習支援センター設立
- T (Teaching Up): 強化教室制導入

28

VI. おわりに

- 世界を先導できる創意的な人材育成のため、教育先進化を推進している

- 個々の学生の素質や特性（個性）「教育の個別化」推進
- 個人の「智徳體」が総合的に発展できるように「教育の全人化」推進
- 新しい知識が創出できるように「教育の自律化」推進
- 世界の教育を先導できるように「教育の尖端化」推進
- 世界各国の優秀な人材と多様な文化を包容できるように「教育の国際化」推進

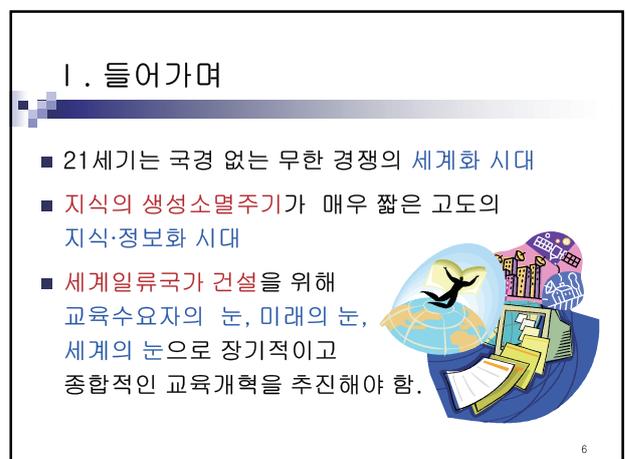
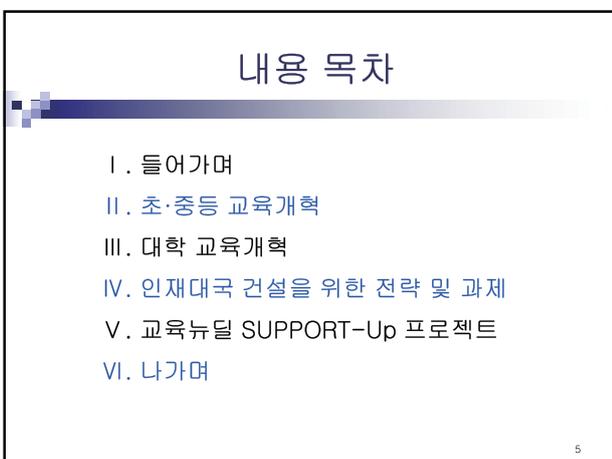
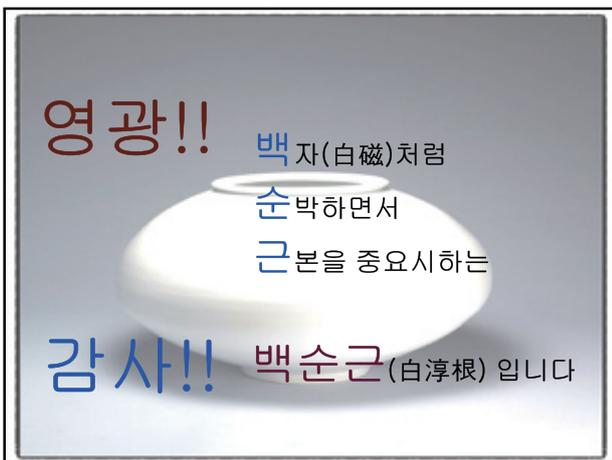
29

<参考文献>

- 教育과학기술부(2008), 2008.2. 대통령인수위작성 국정과제: 교육과학기술관련부분발제.
- 教育과학기술부(2009), 이명박 정부 교육개혁의 성과와 향후과제. 교육과학기술부.
- 대통령자문교육혁신위원회(2007), 교육비전 2030: 학습사회 실현을 위한 미래교육 비전과 전략. 대통령자문교육혁신위원회.
- 유정산(2008), '이명박 정부' 교육개혁 정책추진 6개월의 회고와 전망. 국회의원 조진혁/자유교육연합 세미나 자료집.
- 백승근(2008), 공교육 내실화를 위한 국가수준 학업성취도 평가. 자유주의 교육운동연합 토론회 자료집. pp.7-24.
- 教育과학기술부 홈페이지 <http://www.mest.go.kr>
- 한국교육개발원, 교육통계 서비스 홈페이지 <http://cesi.kedri.re.kr>

30





▶ 한국의 교육현황(취학률, 진학률)

- 초·중·고등학교의 취학률은 **1994년 이래로 거의 100%**를 달성하고 있음.
- **2008년** 고등학교에서 고등교육기관으로의 진학률은 **83.5%**로 전 세계적으로 가장 높은 수준임 (KEDI, 2009).



7

▶ 한국의 교육현황(학교수, 교원수, 학생수, 2008)

학교급	학교수	교원수	학생수
유치원	8,344	34,601	537,822
초등학교	5,813	172,190	3,672,207
중등학교	3,077	108,700	2,038,611
고등학교	2,190	122,906	1,906,978
전문대학	147	12,099	777,854
대학	174	54,329	1,943,437
총계	19,745	504, 825	10,876,909

8

II. 초·중등 교육개혁



9

▶ 고교다양화 300 프로젝트

- 중등교육의 **다양화·특성화·자율화**를 추진함.

- 기숙형 공립고교 150개 설립
- 마이스터고교 50개 설립
- 자율형 사립고 100개 설립
- 고교 특색 살리기 플랜
- 학생별 맞춤형 장학지원 시스템 도입



- **교육력을 강화**하고, 학생과 학부모의 **학교선택권을 보장**하고자 함.

10

▶ 영어공교육 완성 프로젝트

- **국제어**로서의 영어에 대한 관심을 배경으로, **글로벌 인재**를 양성하고자 함.

- 영어수업을 영어로 하는 **교사 양성 및 배치**
- 영어로 하는 수업 확대
- 원어민 보조교사 확보
- 교사 국제교류 프로그램 도입
- 교육국제화 특구 확대 도입



▶ 3단계 대입 자율화

- **대학특성에 맞는 인재**를 선발하고, **학생의 잠재력**을 발굴하는 선진화된 전형 방식을 도입하고자 함.

- 1단계 : 학생부 및 수능 반영 자율화
 - 대학의 학과 특성에 따른 반영 비율 결정
- 2단계 : 수능과목 축소
 - 현재 7과목 → 5과목 → 4과목
- 3단계 : **완전 자율화**
 - 대학 자체 선발능력과 제도적 기반이 구축되었을 때 대학입시를 완전히 대학에 맡김.



12

▶ 기초학력, 바른인성 책임교육제

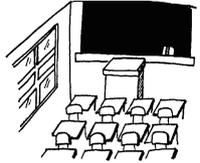
- 단위학교수준에서의 **자율성**을 보장하고, 그에 따른 **책임성**을 점검하여 **공교육의 질**을 관리하고자 함.
 - 기초학력 미달 학생 제로플랜
 - 바른 인성 책임제
 - 학교별 학력정보 등 공시
 - 지역 간·학교 간 교육격차 해소



13

▶ 맞춤형 학교지원 시스템

- 교육의 질 제고 및 교육여건에 따른 교육격차 완화를 통해 **학생들의 학습권**을 보장하고자 함.
 - 교원의 경쟁력과 전문성 신장
 - 미래형 교육과정 개편
 - 교육여건 개선
 - 지역사회와의 협력을 통한 저소득층 학생 지원



14

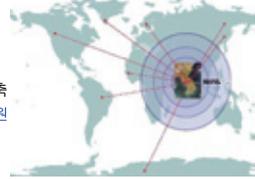
III. 대학교육개혁



15

▶ 글로벌 연구대학 프로젝트

- 연구를 지원하여 그 성과를 **세계적**으로 평가받고, 모든 연구가 소통할 수 있는 **미래형 연구 지원체제**를 구축하고자 함.
 - R&D 삼각 협조체제 갖추고 연구비 지원은 두 배로
 - 영재발굴부터 노후 연구까지 과학기술 인재 생애 지원 인프라 구축
 - 글로벌 과학기술인재 매년 6천명 지원
 - 대학 국제화 지원 강화로 글로벌 아카데미 구현



16

▶ 맞춤형 인재대학 프로젝트

- 학생의 **능력이나 필요** 등의 여건에 적합한 대학교육을 효율적으로 제공할 수 있도록 지원함.
 - 맞춤형 인재대학 인증제도의 도입
 - 취업률과 학생 수에 연동한 포괄적 재정지원
 - 우수한 전문대학의 수업연한을 자율화하여 전문대학생들에게 희망과 자긍심을 주고, 직업교육을 선진화



17

▶ 평생학습 대학 프로젝트

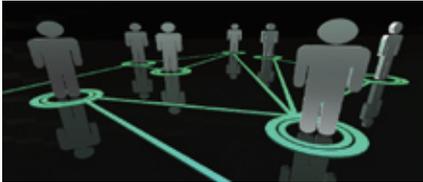
- **유비쿼터스 대학 시스템**을 구축하여 지속적인 학습을 통해 **삶의 질**을 제고할 수 있도록 함.
 - 직장인도 가능한, 대학의 시간제 등록프로그램 활성화 지원
 - 성인의 대학 특례 입학 활성화
 - 대학시설 및 대학자원의 지역사회개방 유도
 - 다양한 사회봉사 마일리지 제도 도입으로 대학, 대학교수, 대학생 등 지식인의 '지식 나눔' 실천 문화 조성



18

▶ 글로벌 휴먼 네트워크 프로젝트

- 대학생 글로벌 현장학습 프로그램의 실시, 청년해외 봉사단 양성, 국가적 차원의 해외취업 활성화 등 **세계적인 네트워크를 구축**하고자 함.



19

▶ 미래형 대학 지원 시스템 구축

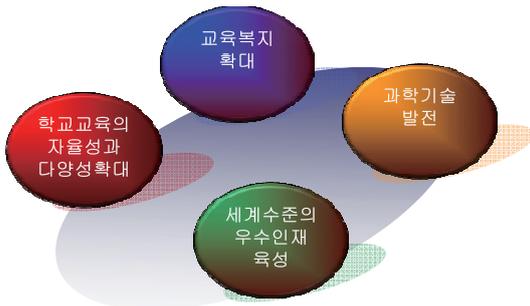
- **대학정책은 자율적 집행기구에 위임**하고, 정부는 **재정지원 및 질 관리**를 하는 지원 시스템을 구축하고자 함.

- 국가장학제도 구축을 통해 저소득층 대상 장학금 우선 지원
- 지역에 난립한 HRD 관련 센터들을 '평생학습고용지원센터'로 통합하여 대학의 산학협력지원과 대학중심의 평생학습-직업 능력개발-고용지원의 원스톱 서비스 구현



20

IV. 인재대국 건설을 위한 전략 및 과제



21

▶ 학교교육의 자율성과 다양성 확대

- 학생들이 자신의 **적성과 능력에 맞는 교육을 선택**하도록 하기 위해 학교교육의 자율성과 다양성을 확대하는 것이 필요함.

- 학생과 학부모가 원하는 다양한 학교 설립
- 학교의 자율성과 책임감 고취
- 교원의 전문성 향상
- 교육과정과 교과서 개편
- 학교와 지역사회의 협력 강화



22

▶ 교육복지 확대

- 가난의 대물림을 방지하고 교육의 형평성을 제고하여, **교육을 통한 사회통합과 균형발전**을 추구함.

- 가난으로 인한 교육기회 불평등 해소
- 학력신장과 교육격차 축소
- 학생들의 건강과 안전 책임
- 유아교육과 특수교육의 내실화
- 평생 공부할 수 있는 환경 마련



23

▶ 세계수준의 우수 인재 육성

- **미래지향적 자율과 경쟁 시스템으로 전환**하여 국가 발전을 선도할 **핵심동력**으로 기능하도록 함.

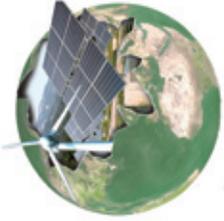
- 대학의 자율성 확대
- 대학과 연구기관의 교육과 연구역량 강화
- 연구자 중심의 환경과 여건 조성
- 글로벌 청년리더 10만 명 양성
- 체계적인 영재육성시스템 마련



24

▶ 과학기술 발전 추구

- **전략적인 과학기술 투자를 통하여 연구와 교육 역량을 강화** 하여 미래사회에 적극적으로 대응함.



- 과학기술 투자를 전략적으로 확대
- R&D 시스템을 민간 전문가 주도도 전환
- 기초원천연구를 진흥
- 녹색기술을 발전
- 과학문화의 생활화 추진

25

V. 교육뉴딜 SUPPORT-Up 프로젝트

- ‘교육 뉴딜’이란 정부가 **현재의 경제위기 상황에서 교육에 적극적으로 투자함으로써 경기활성화에 기여하고 공공교육 내실화·고품질화를 통해** 인제대국, 나아가 세계 일류국가 를 건설하고자 하는 **위기관부 비상 대책임.**
- 1990년대 초 대공황하의 미국 루스벨트 정부에서 경기회 복과 사회적 재분배를 목표로 전 부문에 직접적으로 투입 한 뉴딜(New Deal)을 ‘교육’에 적용한 것임.

26

선진
일류국가 건설

공교육 살리기
교육경쟁력 제고

교수학습 역량 강화
교육시설 및 환경 개선
교육제도 개혁 및 구조조정

경기 활성화 + 일자리 창출

교육 뉴딜 SUPPORT-Up 프로젝트

▶ 주요 사업 내용

- 주요 사업들은 다음과 같으며, 영문 첫 글자를 따서 ‘**SUPPORT-Up 프로젝트**’로 명명하고자 함.
 - S (School Up): 교육시설 및 환경 개선
 - U (U-learning Up): U-learning 환경 조성
 - P (Program Up): 방과후 교수·학습 프로그램 지원
 - P (Practice Up): 실습·실습·체험 활동 지원
 - O (Opportunity Up): 청년 일자리 창출
 - R (Resources Up): 지역 교수·학습지원센터 설립
 - T (Teaching Up): 교과교실제 도입

28

VI. 나가며

- 세계를 선도할 수 있는 세계 일류수준의 창의적 인재 육성을 위해서, **교육의 선진화를 강력하게 추진**하고 있음.
 - 학생 개인의 소질과 특성에 적합한 ‘교육의 개별화’ 추진
 - 개인의 지적체(智德體)가 조화롭게 발전할 수 있도록 ‘교육의 전인화(全人化)’ 추진
 - 새로운 지식을 창출할 수 있도록 ‘교육의 자율화’ 추진
 - 세계의 교육을 선도할 수 있도록 ‘교육의 첨단화’ 추진
 - 세계 각국의 우수한 인재와 다양한 문화를 포용할 수 있도록 ‘교육의 국제화’ 추진

29

- 한국의 GDP 대비 교육재정규모는 약 5%정도/ OECD 국가 평균 6% 에 미치지 못하며, 교육인프라 수준은 최하위 수준임 / **교육부문에 대한 국가재정 규모를 더욱 확대하기** 위해 노력하고 있음.
- 교육기관과 지방자치단체 및 지역사회의 **유기적인 연계**를 강화하고 있음.
 - “내가 낳은 아이, 동네 사람들이 함께 키운다.”
- 부처이주의외 교과이주의 등을 극복하고, ‘**교육 선진화**’를 위한 **각계의 관심과 상호 협력을 강화**하고 있음.

30

<주요 참고 문헌>

- 교육과학기술부(2008). 2008.2. 대통령인수위작성 국정과제: 교육과학기술관련부분 발췌.
- 교육과학기술부(2009). 이명박 정부 교육개혁의 성과와 향후과제. 교육과학기술부.
- 대통령자문교육혁신위원회(2007). 교육비전 2030: 학습사회 실현을 위한 미래교육 비전과 전략. 대통령자문교육혁신위원회.
- 류청산(2008). '이명박 정부' 교육개혁 정책추진 6개월의 회고와 전망. 국회의원 조전혁/자유교육연합 세미나 자료집.
- 백순근(2008). 공교육 내실화를 위한 국가수준 학업성취도 평가. 자유주의 교육운동연합 토론회 자료집. pp.7-24.
- 교육과학기술부 홈페이지 <http://www.mest.go.kr>
- 한국교육개발원, 교육통계 서비스 홈페이지 <http://cesi.kedi.re.kr>

31

